

会 議 要 旨

(1 / 5)

会議の名称	第3回 川越市国際化基本計画審議会
開催日時	平成27年10月9日(金) 午後6時 開会 ・午後8時30分 閉会
開催場所	川越市役所第一委員会室
議長(委員長・会長)氏名	山田 あき子
出席者(委員)氏名(人数)	清水 俊男、ベアリ・ドウエル、筒井 哲朗、藤森 貞花、 焦 雁、王 一、エンフバートル・アミナ (7人)
欠席者(委員)氏名(人数)	鐸木 昌之、亀田 道明 (2人)
事務局職員職氏名	中里国際文化交流課長、 檜田国際文化交流課副課長、田中国際文化交流課主査
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 第四次川越市国際化基本計画素案について</p> <p>(2) その他</p> <p>4 閉会</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回川越市国際化基本計画審議会 次第 ・ 第四次川越市国際化基本計画 素案 【資料3-1】 ・ 第四次川越市国際化基本計画 施策の体系 【資料3-2】

議 事 の 経 過

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議題

(1) 第四次川越市国際化基本計画素案について

事務局説明後、意見及び質疑。主なものは次のとおり。

国際化の現状と課題について**【外国人住民の受入れ】**

●市として外国人住民や移民を増やそうという考えはあるのか。
⇒国の指針として、生産人口を増やす等の理由で外国人住民や移民を受入れていくという考えはあるが、市のレベルでそれを大きい施策としてとりあげるのは難しい。

●4国際化の現状と課題(3)外国籍市民の増加で記載されているデータは正しいか。
⇒平成26年度末のデータを使用している。

1—(1) 外国籍市民への支援について**【学習指導支援】**

- 事業がボランティアに頼りすぎている感がある。予算の問題もあると思うが、報酬が与えられれば、より意識を高く責任をもって学習指導の任務につけるのではないか。
- 放課後の指導。指導ボランティアと一緒に勉強するのも大事だが、生徒を隔離してしまうと友達と遊ぶ時間がなくなってしまう。日本人の友達と一緒に遊ぶことで、そこから学ぶことも大いにある。

1—(2) 外国籍市民への情報提供について**【メール配信】**

- メール配信となると言語的な問題がある。また相手のメールアドレスはどのように把握するのか。
⇒多くの言語があるので、まずはやさしい日本語ではじめるのがいいと考えている。メールアドレスも個人情報であるので、関連情報の受け取りを希望する外国籍市民に自ら登録してもらう等の方法があるが、詳細についてはこれから検討する。

議 事 の 経 過

- メール配信を実施してもニーズがないのではないか。実際は、このようなことは日常のコミュニケーションのなかで伝えられている場合が多いと思う。日本の情報を誰かが分かりやすく翻訳しチラシの様なものを作成し、外国籍市民が集まるお店や教会などに置き、情報提供をする。定期的に説明に出向いたりして広報をお願いするほうが効果的ではないか。
- ⇒広報については、行政が苦手とするところ。メール配信だけにこだわらず、必要とされる方法を探り、進めていきたい。

【災害情報】

- 災害に関する情報提供も重要。東京都で、全都民に配布した災害関連の冊子に学ぶところがある。最後のページには外国の方に話しかけられたときの為の問答集がついている。困った時は都民全員がボランティアとして協力していこう、といった構想でとても良い。

1—(3) 留学生の支援について**【留学生就職支援】**

- 留学生を社員として受入れてくれる市内企業があるのか。
- ⇒観光や海外取引の面などでも、外国語のスキルを持った人が必要と考えている企業はある。
- 留学生の就職支援には、商工会議所や市の雇用支援課などと連携して進めていく必要がある。大学でも企業説明会などがあるので、そこに市内企業も積極的に参加してもらいたい。
 - 留学生のための奨学金制度を設けて支援する方法もある。その際はきちんと審査し、将来川越市のために貢献してくれるように条件を付けたほうが良い。そうでないと留学生は奨学金をもらった時点で安心し、ハングリー精神がなくなってしまう。

2—(1) 市民の人材育成について

- 観光ガイドボランティアについては、無料でなく有償として行うことも考えられる。
- ⇒市の立場では生業として事業を進めることは難しいが、観光協会など認可されている団体・法人が主導となれば可能性も広がる。

議 事 の 経 過

2—（2）市民の人材活用について**【通訳・翻訳ボランティア】**

- 通訳・翻訳ボランティアの登録には資格等があるのか。
⇒言語のレベルは図りにくいこともあり、現在資格などの規定は設けていない。
- 登録ボランティアの情報の開示。本人が希望すれば、自身の名前や顔、紹介文を書き掲載できるシステムを利用している区がある。個人情報の問題もあるが、利用者にとっては便利だと思う。

2—（4）学校における国際化の推進について**【国際理解教育】**

- 国際理解教育の開始時期。外国人が地域や学校に入ってくると、始めは仲良くするが少し経つと色々と問題がでてくる。国際理解教育は、就学前の幼稚園、保育園などもっと幼いうちからはじめたほうが良い。
- 国際理解教育の意義。国際理解教育は以前から行われているものの、実際教育を受け成長した人たちに話を聞くと、「内容についてあまり記憶に残っていない」という人が多い。国際理解や国際交流などの教育をするのは良いことだが、ただやるだけではなく内容についても工夫し、まず「相手を認める」という姿勢を学ぶことが大切と思われる。

【学校での児童支援】

- 実際に不登校になった外国籍生徒、その保護者の通訳として、学校での話し合いに出席したことがある。学校側も頑張っただけでは対応していたが、やはり子ども同士が壁を取り払えない場合が多く、解決するのは難しいと感じた。
- 多言語対応。学校に配置されている指導助手は、今後英語だけではなく多言語で対応していくべきだと思う。
- 学校での外国籍児童生徒等への支援については、長い間行われているが必ずしも上手くいっているとは言えない。教育委員会としてのやり方と国際交流としてのやり方があると思うが、国際交流の部分でどこまで補完できるか等、お互いの協力体制が必要。

議 事 の 経 過

2 - (5) 外国人観光客誘致による国際化の推進について**【外国人観光客への対応】**

- 受け入れ側の態度。外国人観光客に対しては寛容な心を持って接することが大事。「外国人観光客は声が大きすぎる」等日本人からの文句を耳にすることがあるが、海外に来て楽しい気持ちになれば自然と声も大きくなる。そういうことを理解してもっと大きな心で外国人観光客を迎える姿勢がほしい。
- 誘致戦略。市内にある化粧品会社とタイアップし、工場見学や直営販売などを取り入れた観光ルートを作り、売りこむこともできる。
- 外国人観光客の目線に立つ。地元の人が考える川越名物と観光客が目当てにしているお土産は必ずしも一致していない。フェイスブックなどの口コミも影響していると思われるが、誘致を目的とするならば伝統的なものだけに固執せず、観光客が実際何を目的に来ているのか等に目を向けるのも大事。

VI 計画の指標について

- 指標が3つ載せてあるが、これだけでいいのか。第四次の達成状況を確認する指標としては分かりにくいと思われる。

全体を通して

- これまで3回の国際化基本計画の中にはそれぞれ大きなトピックがあったと思われるが、今回の計画ではそれが見えてこない。第四次では何を柱として行い、どういうアウトプットを行うのかを示したほうが分かりやすい。

(2) その他**【次回の会議日程について】**

- ・10月23日(金)に予定。事前に各委員あて連絡する。

4 閉会